

平成27年度 特定非営利活動法人京都景観フォーラム 事業報告書(案)

1. 事業の報告に関する項目

定款第5条に記載された各事業について、以下の通り報告する。

(1) 特定非営利活動に係る事業

表 事業一覧

事業名 (定款第5条)	プロジェクト名		事業概要
① 景観まちづくりについて 市民への情報・交流・啓発 事業	情報の提供		市民が主体となって景観まちづくりを進めていくために役に立つ情報を提供する。
	景観についての意識の啓発 に関する事業	地域サポート活動	市民が主体となって景観まちづくりに取り組んでいくための働きかけや支援を行う。(活動地域: 鴨川景観、七条通界わい、嵐山、深草、柘野、三条通、待賢)
		シンポジウム	通常総会に合わせて年に1回活動報告会を実施する。また、必要に応じてテーマ型シンポジウムを、都度、開催する。
		表彰	京都文化の向上に寄与する景観や景観を創造し維持する活動を、年に1回程度当法人にて選定し、「京都景観フォーラム賞」を贈呈。
② 地域景観資源の調査・研究	良好な景観の形成に関する調査研究		「景観まちづくり」のベースとなる地域特有の歴史的・文化的な意義を、文献や聞き取りによって、明らかにする調査や研究を行う。
	研究会事業		景観まちづくりに関わる専門性を高めるため、研究活動を行う。
③ 景観まちづくりに関する 教育事業	地域の景観まちづくりを支援する専門家の育成	京都景観エリアマネジメント講座	地域の住民が主体となった「景観まちづくり」の推進を支援するために、専門的な知識を有する適切な人材を育成する。
④ 地域の景観まちづくりの支援(相談・アドバイス・人材の派遣)	受託事業		地域の住民が主体となった「景観まちづくり」の推進を支援するため、行政や民間から業務を受託したり、専門的な知識を有する適切な人材を派遣する。
	地域ネットワーク活動支援事業		地域が地域情報の共有や発信を行う取組を支援する事業として、地域ホームページ運営支援事業を進める。また、地域景観づくり協議会をはじめとして、景観まちづくりに取り組む地域間のネットワーク形成や交流事業を支援する。
	相談業務		地域で抱える「景観まちづくり」についての課題や疑問について、さまざまな分野の専門家(京都景観エリアマネージャー)がネットワークを組んで、相談に応じる。
⑤ 景観まちづくりへの提言	景観形成に寄与する企画・計画・提案・協働	公共景観要素デザインプロジェクト	まちなかの景観に大きな影響を与えるサインなどの公共的なデザインアイテム(公共景観構成要素)についての研究・提案
		屋外広告物	まちなかの景観に大きな影響を与える屋外広告物についての研究・提案。
⑥ 景観まちづくり推進のための体制づくり			景観まちづくりを支援する専門家のネットワークを広げる。
⑦ その他、この法人の目的を達成するために必要な事業	交流活動		国内外の景観まちづくりに関わる団体と交流する。
	団体運営		各事業を適切に行うためのNPO運営を行う。

①景観まちづくりについて市民への情報・交流・啓発事業

□情報の提供

住民が主体となって「景観まちづくり」を推進していくきっかけづくりや、さまざまな地域の景観まちづくりを支援するプロジェクトに取り組み、それによって得られた情報を、ホームページ、フェイスブック、メーリングリスト、プロジェクト冊子やレポートなどを通じて提供した。また、「景観まちづくり」のプロセスやノウハウについて、一般向けのセミナーやシンポジウムを開催して、情報を共有した。（詳細は、「■地域サポート事業」、「■シンポジウム」、「■研究会事業」参照）

情報発信ツール	内容	更新	受益対象者の範囲 及び人数	実績
ホームページ	団体情報の発信。	年に数回。	公開	更新2回
フェイスブック ページ	団体の活動情報の予 告と報告。	都度（1週間に 1回程度）。	公開	1週間に1 回程度
メーリングリス ト	団体の活動情報の予 告と報告。景観まち づくりに関する情報 の提供。	都度（1週間に 1回程度）。	登録者数約250 （会員、講座受講 生、及び情報提供 希望者）	1週間に1 回程度
レポート	団体の活動報告。	都度	会員他	発行なし
活動報告書	団体の年度活動報 告。	年に1回（5 月頃発行）	会員他	発行1回
プロジェクト冊 子	団体のプロジェクト 報告。	都度（各プロ ジェクトに応 じて発行）	会員他	発行3冊

□景観についての意識の啓発に関する事業

市民が景観をきっかけとして、暮らしやまちに対する関心を高め、地域の繋がりを強め、未来へ向けて「京都らしい」「地域らしい」景観まちづくりに取り組んでいくための働きかけや支援を行った。

■地域サポート活動

京都の景観として重要だと考える構成物（建物・建造物・インフラなど）や特定の地域について、プロジェクトを組んで自ら行動し、さらに市民や地域に働きかけて関心を促し、連携を広げていく事業を行った。

●鴨川景観プロジェクト

概要：京都市の中心部を流れる鴨川の景観を考えるため、都市における自然空間と人の営みの調和をテーマに鴨川あるきを実施し、関係者のネットワーク構築を行った。また、七条大橋が平成25年に竣工百年を迎えたことをきっかけに、七条大橋の歴史的、文化的、景観的価値の認識を広める活動を実施した。

成果：年4回開催した鴨川あるきでは、昨年度実施のテーマに加え、希望の多いテーマで

も新たに開催することができ、効率的に事業を実施できるようになった。七條大橋は、東山区まちカフェプロジェクトの「七条大橋をキレイにしよう！」に参加し、月1回の清掃活動やパンフレットの作成に協力した。

活動：

活動内容	活動日時	活動場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	その他
鴨川府民会議参加	平成27年6月10日、7月15日、9月11日、10月24日、12月18日、平成28年3月22日	主に京都府公館	1	会議委員約40	
鴨川あるきの実施	平成27年4月11日、7月11日、7月25日、12月12日	鴨川	2	参加者のべ約30	
七条大橋をキレイにしよう！プロジェクト参加	毎月7日	七条大橋	2	参加者のべ約150	パンフレット作成

●七条通界わいプロジェクト

概要：下京区の七条通界わいのわずか4km区間はトータルなブランドづくりがなされていない。七条大橋を起点として、歩いて楽しい七条通界わいの魅力を掘起し、エリアマネジメント組織の文化活動をサポートし、ブランド形成を促進する。

成果：町歩きやシンポジウムを通じて、崇仁・菊浜学区・京都市立芸術大学・東九条の在日コリアンコミュニティとの関係づくりを行った。また、地域と東本願寺や福祉施設とのネットワークを活用して、国際シンポジウムを開催した。さらに、KESや公益財団法人京都市都市緑化協会などのキーパーソンとつながり、東山、鴨川、寺社の緑、梅小路公園「いのちの森」、京都駅ビル「緑水歩廊」、フジバカマプロジェクトなどのエコロジカルネットワーク形成や京都駅西部エリア開発との関係づくりなどの課題とビジョンが明らかになった。これらの成果は「環境と人権のまちづくり」というコンセプトで冊子にまとめた。

活動：

活動内容	活動日時	活動場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	その他
「京都市立芸術大学を核とする崇仁エリアマネジメント」に参加	毎月1回	平成の京町家普及センターなど	毎回10名程度	七条通界わいのみなさん	
高瀬川町歩き	9月27日	五条～塩小路	19名参加	崇仁・菊浜学区	
日台民間交流国際シンポジウム	11月27,28日	枳殻邸, 東九条-故郷の家	122名参加	東アジアの人々	台湾から14名参加
西七条村の歴史・住民ヒヤリング	8月28日	小林邸	4名参加	西七条のみなさん	
冊子「世界に発信！！七条通界わいの魅力」発行	3月		2名		

●嵐山プロジェクト

概要：嵐山景観まちづくり協議会準備会が立ち上がり、協議会設立に向けた調整を行うとともに、ひばり館跡地等の再整備にあたって、準備会の活動の相談にのった。嵐山保勝会等の地域組織において世代交代が進みつつあり、これにあわせて準備会等の位置づけを再検討中である。

成果：準備会として、地域内の建築行為等に対する活動を通じ、協議会の模擬的活動となった。情報共有や体制等のあり方について、課題が明らかになった。

活動：会合2回のほか、地域での動きに応じて、メール、電話等での相談に応じた。

活動内容	活動日時	活動場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	その他
会合	4月27日	嵐山	1名	準備会コアメンバー	
会合	1月13日	嵐山	1名	準備会コアメンバー	

●深草プロジェクト

京都市伏見区役所深草支所より「(仮称)深草まるごとつながり市民会議(鴨川運河会議含む)の運営に係る業務」として受託し、前年度から続く「鴨川運河会議」及び、新規事業「深〇ねっと」の企画・運営を行った。

○鴨川運河会議

概要：平成27年度鴨川運河会議は、深草支所主催事業としての最終年度であったため、参加者が今後持続的に活動を継続できることを目指し、そのための支援をいかに行うかに注力した。年度前半の公式鴨川運河会議の開催時期を『自立的運営意識付け期』、各チームと全体との関係、進め方等、体制を固めていく中盤を『組織形成見守り期』、終盤を、チーム主催イベントを積み重ねつつ、活動基盤を整えていく『成功体験積み重ね支援機』と位置付けた支援を行った。

成果：市民活動として自立した『鴨川運河会議』の体制を整えるとともに、『鴨川運河会議』が地域に認知され活動しやすい環境整備を整えることができた。また、学識者や京都市上下水道局、建設局等と、今後の協働に向けた関係づくりができた。

活動：まず、公式鴨川運河会議4回を通して、自立に向けた意識付けを行った。その後、月一度のミーティング機会を設け、体制を整えるとともに、参加者各自のやりたいことを実現し、小さな成功体験ができるよう、支所側で小額の助成金を設け、自立を促した。それに伴い、広報キャラバンやシンポジウムを実施することで、地域、広く市民に『鴨川運河会議』の活動を周知し、今後の活動基盤を整えた。

活動内容	活動日時	活動場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	その他

鴨川運河会議第0回『SET!カモウン』	5月16日	深草支所	2人	19人	
鴨川運河会議第1回『HOP!カモウン』	6月6日	深草支所	2人	32人	
鴨川運河会議第2回『STEP!カモウン』	7月4日	深草支所	2人	25人	
鴨川運河会議第3回『JUMP!カモウン』	8月1日	深草支所	2人	27人	
鴨川運河会議チームミーティング	9月～3月毎月開催	深草支所			
ウォーキング、カフェ、歴史アーカイブ、清掃等、各チーム主催イベント	11月～3月随時	鴨川運河沿い			
シンポジウム『鴨川運河の魅力再発見!』	1月31日	深草支所	5人	118人	
鴨川運河会議『活動報告会&交流会』	3月19日	深草支所	2人	106人 (内深草小学校4年生40人)	

○深草まるごとつながり市民会議

概要：名称を「深草まるごとつながりネットワーク」（通称：深〇ねっと）とし、深草地域に「住みたい、住み続けたい」と思えるまちづくりの実現を目指すための「出会いと学びの場」と位置付け、企画した。今年度は、深草地域のまちづくりに関する様々な課題の中から、『みどり』にテーマを絞り、3つのステップで構成される事業を実施した。

成果：参加者が、これまでの活動団体の取り組みを理解し、また実際に歩いてみることで、深草全体を俯瞰したみどりについて、その魅力と課題を把握することができた。最終回には、30年後の理想の深草を描いた巨大コラージュマップを完成させ、次年度以降の深草支所のまちづくり活動の方針づくりに寄与することができた。

活動：参加型の3ステップの事業とした。ステップ1として、これまで深草のみどりに関わってきた団体関係者からの話題提供をもとに、参加者間で深草のみどりを語った。次のステップは、フィールドワークで実際に自らの目で確かめ、活動に参加することで、参加者のテーマ理解を促進することとした。最終ステップでは、深草各地域の理想のみどりの在り方をコラージュマップで表すことで、課題整理を行った。

活動内容	活動日時	活動場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	その他
深〇ねっと①『地域資源をいかに魅せる?』	9月5日	深草支所	2人	31人	

深〇ねっと②-1 『現場を歩いて見よう』	10月20日	京エコロジーセンター	2人	9人	
深〇ねっと②-2 『現場を歩いて見よう』	11月29日	大岩山周辺	2人	14人	
深〇ねっと②-3 『現場を歩いて見よう』	12月5日	稲荷山周辺	2人	25人	
深〇ねっと①『深草で何ができそう?』	12月12日	深草支所	2人	13人	

●柘野プロジェクト

概要：まちづくりビジョン推進委員会において、専門家の立場でアドバイスをを行った。

成果：前年度までの取組みの成果により地域の主体的活動が生まれている。

活動：まちづくりビジョン推進会議でのアドバイス

活動内容	活動日時	活動場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	その他
まちづくりビジョン推進委員会	7月16日	柘野小学校	1人	10人	

●三条通プロジェクト

概要：三条通界わい景観整備地域を対象としている「京の三条まちづくり協議会」において、地域景観づくり協議会への指定にむけて、計画書に盛り込むことにもつながる今後の景観まちづくりの指針づくりについて、フィールドワークとワークショップを行い、6つの指針としてまとめることをサポートした。また、それをより具体的に解りやすく解説したものに纏めて20周年記念誌のなかに掲載した。まちカフェとして、「景観づくりの制度を学ぶ～三条界限景観整備地区と地域景観づくり協議会の制度について」を開催した。無電柱化については、協議会のなかに「推進委員会」が組織され、事務的なお手伝いをしている。

成果：27年度は、京の三条まちづくり協議会設立20周年で、記念冊子の作成や記念式典を行うことが大きな事業となった。記念誌のための資料整理などを手伝い、立派な記念誌が出来上がった。協議会の活動の20年の歴史を振り返り、記録することができた。また、協議会内外に協議会の存在や意義を周知することができた。この事業や無電柱化に向けての動きなどで、関心をもつ人が増えた。今後は、さらに「景観まちづくり」について目標の共有を諮っていく。

活動：

活動内容	活動日時	活動場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	その他
まちカフェ 景観づくりの制度を学ぶ	5月16日	京都文化博物館別館会議室	12	8	13

品格の6つの心得 検証フィールドワ ーク1	7月26日	三条通寺町～新 町	5	7	
同上のまとめワー クショップ1	8月5日	河合塾京都校	3	5	1
品格の6つの心得 検証フィールドワ ーク2	9月27日	三条通寺町～新 町	7	1	
同上のまとめワー クショップ2	10月7日	河合塾京都校	7	6	4
品格の6つの心得 検証フィールドワ ーク3	11月29 日	三条通寺町～新 町	4	3	
同上のまとめワー クショップ3	12月2日	河合塾京都校	7	7	3

●待賢プロジェクト

概要：待賢まちづくり委員会に参加し、待賢エコプロジェクト、空き家流通促進事業を始めとする活動に対し、助言や支援を行った。

成果：待賢エコプロジェクトは、生ごみ堆肥化装置が稼働し、生ごみを学校に持ってきてくれる住民が徐々に増え20名程度になっており、取組が広がってきている。空き家流通促進事業では、実態調査を行い、アンケート調査を発送した。(回収は次年度)。また、住民向けの空き家勉強会&相談会では、住民の関心が高いことがあきらかになった。引き続き取り組んでいくことが確認された。

活動：待賢エコプロジェクトでは、生ごみ堆肥化装置を校庭に設置し稼働した。堆肥は、校庭裏の畑で活用した他、待賢カーニバルでの販売も行った。徐々に住民が持ってきてくれる生ごみの量も多くなり、堆肥の消費量より生成量が上回る状況となっており、堆肥の活用方法を拡充する必要性が生じている。空き家流通触診事業では、空き家の実態調査とアンケート調査を行ったほか、司法書士を講師として空き家に関する勉強会&相談会を開催した。また、京都市景観・まちづくりセンターの地域まちづくりワークショップに待賢学区として参加し、まちの現状や課題、将来ビジョンについて話し合う機会をもった。

活動内容	活動日時	活動場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	その他
まちづくり委員会	月1回	待賢学区	1	まちづくり委員会20名	
地域まちづくりワークショップ	11月26日 12月17日 1月24日 2月18日	待賢学区	1	参加者のべ20名	
空き家会合	1月9日	待賢学区	1	参加者4	
空き家実態調査	1月26日	待賢学区	1	参加者3	
空き家勉強会&相談会	1月16日	待賢学区	2	待賢学区住民16名	

■シンポジウム

1年に1回、通常総会に合わせて活動報告会を開催した。また、各プロジェクトの進捗にあわせて、テーマを設けたシンポジウムを開催した。

●活動報告会

概要：5月の総会にあわせて、同日に昨年度事業の報告会を行った。会員向けの情報発信や、非会員向けの活動紹介を目的とし、NPOの活動内容を総合的に知っていただく機会とした。

成果：参加者数 27名（正会員14名、一般会員10名、その他3名）

活動：

日時：平成27年5月17日（日）13時半～17時

場所：京都市景観・まちづくりセンター ワークショップルーム

話題提供：「公共空間の景観改善に関する取り組みの国際的意義」

京都府立大学教授/NPO 法人京都景観フォーラム顧問 宗田好史氏

●日台民間交流シンポジウム in KYOTO

財団法人台湾民主基金会（TDF）との共催でシンポジウムを2回開催した。

概要：

①第1回シンポジウム

昨年6月に台湾の日本研究者より、崇仁地区で日台のマイノリティ問題をテーマにした国際シンポジウム開催したいとのオファーがあり、崇仁エリアマネジメントの皆さんと相談し、「京都市立芸術大学移転を機にマイノリティ・まちづくり・民主と人権」をテーマに開催した。台湾から14名が参加し、崇仁地区・東九条地区をフィールドワークして、お互いの社会の問題を議論した。門川京都市長はシンポジウムのあいさつで「日本・京都が東アジアの国々ともっと交流して、世界の平和に貢献できる」と語ってくれたが、東アジアの平和と安定を発展させるために、民間外交が果たす役割が大きく、京都そして七条通界わいはその舞台にふさわしいという思いを強くした。以上は、台湾との民間国際交流という点でも成果があり、シンポジウムでお互いの社会への理解が深まったことが評価を受け、今年4月に第2回シンポジウムを行うこととなった。

②第2回シンポジウム

「官民協働，市民参加と地方自治」をテーマに、日本と台湾の経験を比較検討した。京都は千年の歴史の中で幾度も壊滅的な危機に直面したが、そのたびに人々の創意工夫、伝統の継承と革新によって乗り越えてきた。今日、京都市においては、京都市未来100人委員会や各区役所での住民ミーティングや助成事業が開催され、京都府においては京都府地域力再生プロジェクト支援事業が実施され、住民参加やエリアマネジメントの様々な取り組みが行われている。今回の会場となった立誠学区は、住民主導の文化・景観まちづくりで空洞化や荒廃を克服してきた地域である。明治時代に地域住民によって創設された立誠小学校は人口減少により1993年に教育施設の役割を終えたが、歴史ある校舎は保全され老若男女が集う文化活動の拠点として活用されている。以上のような取り組みを、京都経験（Kyoto experience）

として発信し、台湾における地方都市経営、災害からの復興、自然と共生する地域開発の経験と比較し議論した。

成果：

崇仁・菊浜学区・京都市立芸術大学・東九条の在日コリアンコミュニティとの関係づくりから、地域と東本願寺や福祉施設とのネットワークを活用して、国際シンポジウムを開催することができた。また、第1回シンポジウムで行った京都ならではの演出に好評いただき、第2回目のシンポジウム開催につなげることができた。高瀬川の桜の下で、京都文化と地域ネットワークを活かした手づくりのおもてなしをすることで、打ち解けて信頼感に満ちた国際交流となったと考える。

活動：

活動内容	活動日時	活動場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	その他
シンポジウム	2015年11月27日、28日	枳殻邸, 東九条-故郷の家	10名	122名参加	
(参考)シンポジウム	2016年4月1日、2日	元・立誠小学校	10名	108名参加 東アジアの人々	

●鴨川運河会議シンポジウム

概要：鴨川運河会議シンポジウムチームと NPO 法人京都景観フォーラムの共同主催の形で、一般市民を主対象に『鴨川運河の魅力再発見』と題したシンポジウムを行った。当日は前半、これまでの鴨川運河会議の取組みを紹介した後、①疏水記念館資料研究専門員 白川哲夫氏、②京都工芸繊維大学大学院教授 小野芳朗氏、③近畿大学教授 岡田昌彰氏、④金沢工業大学准教授 山田圭二郎氏の各氏から講演いただいた。後半は、牛尾洋也氏（龍谷大学教授）のコーディネートのもと、上記4名に加え、松嶋雅幸氏（京都市上下水道局）鶴飼氏（鴨川運河会議）の計6名がパネリストとなり、活発な意見交換が行われた。会場参加者からも多くの質疑や意見が寄せられた。

成果：市民に、琵琶湖疏水水系における『鴨川運河』というもの、また、その歴史を知ってもらい、さらに景観的視点、土木遺産的視点に気付いてもらうという目的が果たせた。景観フォーラムの立ち位置から、本シンポジウムの開催には、地域住民の本活動への理解を高めることで、今後市民主体の『鴨川運河会議』が自立的活動を展開できるための環境・基盤整備の意味もある。アンケートでは、今回のシンポジウムを『良かった』と回答した人が85%以上に上ったこと、2社の新聞社に記事が取り上げられ広く認知された点で、本点に関する成果も得られた。また、会場後方に歴史アーカイブチームの展示を設け、メンバーの協働機会をつくることで、活動への自信とモチベーションの維持向上に寄与することができた。

活動：

日時：平成28年1月30日（土）13時半～17時

場所：深草支所4階会議室

参加人数：118名

■表彰

京都文化の向上に寄与する景観や景観を創造し維持する活動を、年に1回程度当法人にて選定し、「京都景観フォーラム賞」を贈呈する。（今年度は該当なし）

②地域景観資源の調査・研究

□良好な景観の形成に関する調査研究

「景観まちづくり」のベースとなる地域特有の歴史的・文化的な意義を、文献や聞き取りによって、明らかにする調査や研究を行い、景観に関する現状を調査、分析し、地域の特性を明らかにして、望ましい将来像を提案する。また、景観的価値を地域や市民が再認識して「景観まちづくり」を推進していくプロセスを研究し、それらの研究や地域で展開しているプロジェクト事業を通して、「景観まちづくり」のノウハウを研究し構築していく。

活動：

活動内容	活動日時	概要	その他
「京都市立芸術大学移転を機にマイノリティ・まちづくり・民主と人権を考える（資料集）」発行	平成27年11月	平成27年11月27日、28日に開催した第1回TFD日台交流国際シンポジウムinKYOTO「京都市立芸術大学移転を機にマイノリティ・まちづくり・民主と人権を考える」の当日配布資料として発行した。	主催：TFD（財団法人台湾民主基金会、NPO法人京都景観フォーラム）
「官民協働、市民参加と地方自治日本と台湾の経験を比較する（資料集）」発行	平成28年3月発行	平成28年4月1日、2日に開催される第2回TFD日台交流国際シンポジウムinKYOTO「官民協働、市民参加と地方自治日本と台湾の経験を比較する」の当日配布資料として発行した。	主催：TFD（財団法人台湾民主基金会、NPO法人京都景観フォーラム）
「世界に発信！！七条通界わいの魅力」発行	平成28年3月発行	七条通界わいプロジェクトで行ったフィールドワークやインタビュー、同エリアで開催した日台湾交流シンポジウムの内容を報告する冊子を発行した。	助成：京都市下京区まちづくり支援事業、京都府地域力再生プロジェクト

□研究会事業

概要：広報活動の一環として「京都」と「景観」に関連した内容のまちあるきやフィールドワーク、研究会や勉強会を開催するとともに、会員や参加者など京都景観フォーラムに関心を寄せてくださる方々への情報発信を行った。また、京都景観エリアマネージャーを対象として自己研鑽を図る研究会も行った。

活動：

活動内容	活動日時	活動場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	その他
日台シンポジウム報告会	平成27年4月21日	学芸出版社	2名	参加者30名	

117!七条大橋勉強会	平成27年11月7日	下京いきいきセンター	3名	参加者9名	
京のまちづくり史	平成27年10月24日、11月22日	元待賢小学校、元西陣小学校	1名	参加者のべ約50名	共催：京都市景観・まちづくりセンター
京都景観エリアマネージャー研究会	平成27年7月8日、9月30日	元待賢小学校	5名	参加者のべ17名	

③景観まちづくりに関する教育事業

□地域の景観まちづくりを支援する専門家の育成

地域に相応しい景観を保全し創造していく「景観まちづくり」を進めていくためには、地域の歴史や文化、地域の商いや経済の状況、人々の暮らし方など、地域固有の多様な情報を読み取り、総合的な見地によって整理し、マネジメントを図る専門家の手助けが必要だと考える。そのために、「京都景観エリアマネジメント講座」（詳細後述）を実施して、必要な専門的なスキルを身に付け、地域を支援する人材：「京都景観エリアマネージャー」（詳細後述）を育成し登録する。また、そのネットワークを構築して、さらに研鑽を積みながら、地域を支援する活動を展開していく。

■京都景観エリアマネジメント講座

概要：景観まちづくりに関わろうとするさまざまな分野の専門家を対象とし、1年目は景観まちづくりにおける基礎的な知識を得るための基礎講座（8か月・全8回）と、2年目は地域での支援やコーディネートなどより実践的なノウハウを学ぶ実践講座（8か月）で構成する。基礎講座での全8回に出席し、実践講座での実習や修了レポートを提出して、一定の能力を身に付けたと認められるものに「京都景観エリアマネージャー」の称号を授与し、当法人の主旨に同意して活動を共にしていく意思のある者を、登録・京都景観エリアマネージャーとして登録する。

成果：

第5期実践講座	平成27年6月～27年2月	受講者	14名
第6期基礎講座	平成27年7月～27年2月	受講者	22名
※1期～6期までの基礎講座受講者数			166名（通年）
※1期～5期までの実践講座受講者数			74名（通年）
※京都エリアマネージャー登録者数			53名

【実践講座】

回	日程	科目	講師	内容	従事者数	参加人数
1	平成27年 6月20日 (土)	オリエンテーション		フィールドの紹介とグループ分け 個人レポートについて	6	14
2	7月19日 (日)	景観	堀 繁氏	東京大学大学院教授	5	13
3	8月8日 (土)	色彩	渡辺 安人氏	アーキタイプ	5	13
4	9月12日	ファシリテーション	中田 豊一氏	ムラノミライ	3	14
	9月25日				3	10
5	10月24日 (土)	景観まちづくり	門内 輝行氏	京都大学教授	4	11
6	11月21日 (土)	発表		グループで提案	8	10
7	12月		個人レポート相談会		3	-
8	平成28年 1月		個人レポート提出		-	-
9	2月20日 (土)	修了式	実践レポート発表・修了式		15	11

【基礎講座】

回	日程	科目	講師		従事者数	参加人数
1	平成27年 7月18日(土)	基礎理論 (1)	堀 繁氏	東京大学大学院教授	8	33
2	8月22日(土)	基礎理論 (2)	宗田 好史氏	京都府立大学教授	3	25
3	9月26日(土)	京都のまちの形成と景観史	高橋 康夫氏	花園大学教授・京都大学名誉教授	3	23
			中川 理氏	京都工芸繊維大学教授		
4	10月17日(土)	土木と景観デザイン	山田 圭二郎氏	金沢大学准教授	3	27
			篠原 修氏	東京大学名誉教授		
5	11月14日 (土)	京の文化	矢ヶ崎善太郎氏	京都工芸繊維大学准教授	3	20
			谷 晃氏	野村美術館館長		
			笹岡 隆甫氏	未生流笹岡家元		
6	12月19日(土)	建築とランドスケープ	江川 直樹氏	関西大学教授	3	22
			佐々木 葉二氏	京都造形芸術大学教授		
7	平成28年 1月16日(土)	景観政策と法律	飯田 昭氏	弁護士	3	21
			石田 光廣氏	司法書士		
8	2月20日(土)	景観まちづくり・修了式	高田 光雄氏	京都大学大学院教授	15	29

【京都景観エリアマネジメント講座運営委員会（会議）】

講座の内容、講師依頼、パンフレット制作、講座当日の段取り、今後のエリマネのネットワーク、研究会、活用などについて話し合った。

6/4 6/30 8/11 1/16 2/10

2/13 実践講座レポート評価委員会

【京都景観エリアマネージャー研究会】

第1回 「京都の景観政策 その系譜と展望」

話題提供者：前京都市景観政策課担当課長 岡田 圭司 氏

日時：平成27年7月8日（水）

場所：元待賢小学校 会議室

参加者数：10名

第2回 「まちづくり憲章をつくりたい そんな地域への相談対応」

話題提供者：森川 宏剛

日時：平成27年9月30日（水）19：00～21：00

場所：元待賢小学校 会議室

参加者数：7名

④地域の景観まちづくりの支援（相談・アドバイス・人材の派遣）

□受託事業

地域が、地域景観づくり協議会、地区計画の策定、建築計画や景観協定の締結など景観まちづくりに取り組む際に、適切な人材を派遣し支援する。

活動：

活動内容	活動日時	概要	その他
「(仮称) 深草まるとつながり市民会議(鴨川運河会議含む)の運営に係る業務」	平成27年4月1日～28年3月31日	前年度から続く「鴨川運河会議」及び、新規事業「深〇ねっと」の企画・運営。担当者に京都景観エリアマネージャー3名(専門：建築、デザイン)	京都市伏見区役所深草支所
「平成27年度歴史的景観の保全に関するモデル地区での検証業務」	平成27年10月28日～平成28年3月31日	複数のモデル地区において歴史的景観の保全に関する具体的方策(案)を実施した場合の建築活動等への影響等の調査と検証。担当者に京都景観エリアマネージャー8名(専門：建築、土木、まちづくり)	京都市(景観政策課)

□地域ネットワーク活動支援事業

地域がホームページ等を活用して、地域情報の共有や発信を行う取組について、技術的な支援や提案を行う地域ホームページ運営支援事業を推進する。また、地域景観づくり協議会をはじめ、景観まちづくりに取り組む地域のネットワーク形成や交流事業を支援する。

■地域ホームページ支援

修徳学区、桂坂学区、京都市建築協定連絡協議会の3団体について、引き続き支援を行った。松ヶ崎学区について、防災の取組とあわせてホームページのリニューアルを行うことになり、防災マップづくり及び新ホームページの作成を支援した。

■京都市地域景観まちづくりネットワーク

昨年度から、京都市内の地域景観づくり協議会の認定を受けた7地区が、隔月で集まる機会をつくり、各協議会相互の情報交流を行っている。8月3日には、京都市長を招いて、おむすびミーティングを開催した。これを契機に、ネットワークを正式発足し、名称を、京都市地域景観まちづくりネットワークとした。またおむすびミーティングの結果を活用し、京都市とネットワークが共同で、制度周知のためのパンフレットを作成した。なお、ネットワーク今年度9月以降、景観フォーラムが事務局を受託している。

活動内容	活動日時	活動場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	その他
定例会	隔月第1木曜	京都市景観・まちづくりセンター	3名	参加者、毎回20名程度	
おむすびミーティング	8月3日	京都市景観・まちづくりセンター	3名	25名	

□相談業務

地域で抱える「景観まちづくり」についての課題や疑問について、さまざまな分野の専門家(京都景観エリアマネージャー)がネットワークを組んで、相談に応じた。

活動：

活動内容	活動日時	概要	その他
嵐山地域	平成27年4月27日、1月13日	嵐山地域の景観まちづくりの支援に、専門相談員の派遣に、京都景観エリアマネージャー1名(専門：まちづくり)	嵐山地域(まちセン)
八瀬保勝会からの相談	平成27年9月4日、10月3日	八瀬保勝会のホームページのリニューアル等に、専門相談として、京都景観エリアマネージャー2名(専門：まちづくり、マーケティング)	八瀬保勝会
地域景観づくり講座	平成27年10月17日、10月22日及び12月3日	委員に京都景観エリアマネージャーのべ5名(専門：建築、まちづくり)	京都市景観部景観政策課

地域まちづくりワークショップ	平成27年11月26日、12月17日、1月24日、2月18日	ワークショップのファシリテーターに、京都景観エリアマネージャー 1名（専門：まちづくり）	まちセン
まちづくり共同研究会定例会	平成27年12月9日	地域景観づくり協議会について講師として、京都景観エリアマネージャー 1名（専門：まちづくり）	まちづくり共同研究会
東山区元吉町	平成27年1月12日、2月9日、2月24日、3月8日、3月22日	まちづくり協議会の立ち上げに向けた勉強会の講師として、京都景観エリアマネージャー 2名（専門：まちづくり）	元吉町（まちセン）
京都市建築協定連絡協議会 25周年記念事業	平成28年3月6日	ファシリテーターに京都景観エリアマネージャー 4名（専門：建築他）	京都市建築協定連絡協議会
京都市景観市民会議	平成28年3月20日	委員に京都景観エリアマネージャー 2名（専門：建築、法務）	京都市景観部景観政策課
北区まちづくり支援事業		選定委員に理事1名（専門：建築）	京都市北区
崇仁エリアマネジメント「歴史・文化・景観」部会		メンバーに京都景観フォーラム理事1名（専門：ランドスケープ）	崇仁エリアマネジメント

⑤景観まちづくりへの提言

□景観形成に寄与する企画・計画・提案・協働

京都市内の良好な景観形成に、当法人の専門的な見地から寄与するために、行政や企業、団体等に対して、企画や計画・提案を行う。

■公共景観要素デザインプロジェクト

まちなかの景観に大きな影響を与える公共的なサイン、照明柱やバス停、ベンチ、フェンス等のストリートファニチュアなどのアイテム（公共景観構成要素）についての研究・提案を行う。（今年度は特に活動なし。）

■屋外広告物プロジェクト

京都市の屋外広告物政策のターニングポイントであり、「規制型」から「ブランド形成型」の施策が求められている。今までの景観改善の成果を調査分析するとともに、そこから得られた知見や市民の評価や学識者のアドバイスなどから、ビジョンづくりを行う。（今年度は特に活動なし。）

⑥景観まちづくり推進のための体制づくり

行政区や既存の地域団体にとらわれず、まとまった区域で共通のテーマを持って「景観まちづくり」を推進しようとする者と、団体と団体、人材を結びつける橋渡しの役割を担い、新たな展開に広げていく。そのため、京都景観エリアマネージャー同士が情報共有しながらネットワークを組み、京都の景観まちづくりの支援を行えるような環境を整備した。（「■京都景観エリアマネジメント講座」参照）

⑦その他、この法人の目的を達成するために必要な事業

□交流活動

京都の景観を考えるうえで必要な団体間の交流や国内外の都市視察などを行い、自らの活動の視野を広げた。（「■シンポジウム」参照）

□団体運営

以上の各事業を実施する上で、必要な団体運営を行った。

■会議

各プロジェクトの推進のために必要な会議を適宜開催した。団体の運営方針やプロジェクト間の調整などを行う運営会議を月1回程度、運営会議を受けた事務局内部共有のための事務局会議を週1回程度開催した。また、必要に応じて理事会や総会を開催した。

活動：

開催日	会場	参加者	区分
平成27年4月24日	待賢小学校	理事8	理事会
平成27年5月17日	京都市景観まちづくりセンターワークショップルーム	正会員14	総会
平成27年5月17日	京都市景観まちづくりセンターワークショップルーム	理事9	理事会
平成27年7月10日	待賢小学校	7	運営会議
平成27年9月10日	待賢小学校	6	運営会議
平成27年11月19日	待賢小学校	6	理事会
平成27年2月28日	大西建設工業株式会社	9	合宿
平成27年3月10日	待賢小学校	6	運営会議

■会員

今期の会員数は以下の通りであった。

正会員 17名

一般会員 60名

賛助会員 3団体

■その他

事業推進のための適切な団体運営を行うに当たり、税理士及び社会労務士への相談、NPOマネジメントセミナーへの参加など、NPO運営についての知識を学んだ。

活動内容	活動日時	概要	従事者数
NPOマネジメントセミナー	平成27年9月5日、9月26日、10月31日、11月28日	社会の課題を解決することを目的としたNPOの経営戦略を計画及び実施するためのノウハウを学ぶ講座。	6名